

製品名: Mnk1 (リン酸化 Thr385) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05032**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	MKNK1
別名	MKNK1; MNK1; MAP kinase-interacting serine/threonine-protein kinase 1; MAP kinase signal-integrating kinase 1; MAPK signal-integrating kinase 1; Mnk1
遺伝子 ID	8569.0
SwissProt ID	Q9BUB5
免疫原	抗血清は、Thr385 のリン酸化部位周辺のヒト Mnk1 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 351-400

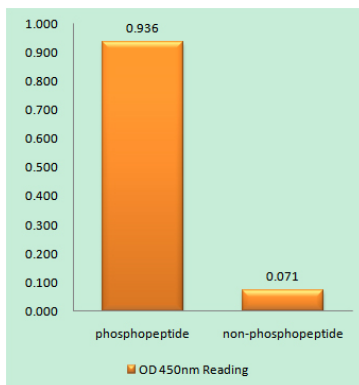
背景

MAPキナーゼ相互作用セリン/スレオニンキナーゼ1 (MKNK1) Homo sapiens この遺伝子は、ERK1 および p38 ミトゲン活性化プロテインキナーゼと相互作用し、それらによって活性化される Ser/Thr プロテインキナーゼをコードしており、環境ストレスやサイトカインへの応答において役割を果たす可能性がある。また、このキナーゼは、eIF4G の C 末端領域との相互作用を介して eIF4E をリン酸化することで転写を調節する可能性がある。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが知られている。[RefSeq 提供、2012 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: p38 キナーゼおよび Erk 経路のキナーゼによってリン酸化および活性化される、機能: 環境ストレスやサイトカインへの応答において役割を果たす可能性がある。EIF4E をリン酸化することで転写を制御し、7-メチルグアノシン含有 mRNA キャップに対するこのタンパク質の親和性を高めると考えられています。、PTM: Thr-250 と Thr-255 の二重リン酸化はキナーゼを活性化します。Thr-385 のリン酸化はキナーゼを活性化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: EIF4G1 および EIF4G2 の C 末端領域と相互作用します。また、脱リン酸化 ERK1、ERK2、および p38 キナーゼにも結合します。、組織特異性: 普遍的。、

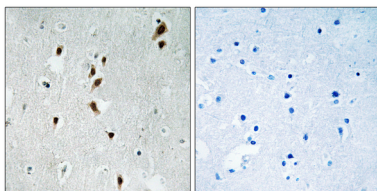
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;インスリン受容体;

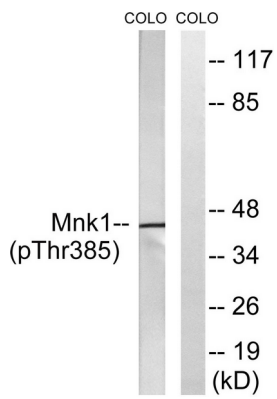
画像データ



Mnk1 (リン酸化 Thr385) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Mnk1 (リン酸化 Thr385) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞ライセートを PMA 125 ng/ml 30分処理し、Mnk1 (リン酸化 Thr385) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。